

首里城のことを思いながら

椎田 多喜男

2019年も、残り少なくなりました。

色んなことが、この1年起こりました。また、自分のまわりでも、様々なことが起こり、他方沢山の方とも出会いました

さて首里城が、炎上している写真を見た方も、多いと思います。そして、多くの方々悲しんでおられると思います。私には、その様が、首里城が、泣きくずれているようにもみえました。

沖縄は、亜熱帯気候に属する、熱く美しい島です。また大国の中国と、間近な日本に挟まれながらも、独自の文化を育んできたところ。小国でしたので、武器を好まない、王国でもあったようです。

そんな沖縄の姿が、一変したのが、アジア太平洋戦争末期の沖縄戦でした。地形が変わるほどの砲撃を受け、兵士は倒れ、島民も多数亡くなりました。毎年6月22日の追悼式には、多数の方が参加しています。

戦後沖縄には、アメリカ軍基地が多数置かれ、それにより多くの島民が、土地を奪われました。軍事基地が集中しているので、日本がもし、戦争に巻き込まれたら、真先に攻撃を受け、戦場になるのが、沖縄県かもしれません。

幸い、戦後基地から爆撃機が飛び立つことはありましたが、戦禍にみまわれることは、ありませんでした。でも、米軍やその関係者による事故に多々の県民が巻き込まれてきました。

今、世界中は緊張していて、どこで戦争やテロがおこっても、おかしくない状況です。国も、それに備える準備を進めているようです。首里城は、おそらく再建されるように思います。でも、さらなる落城だけは、あってはならないと願います。

沖縄や日本が、大丈夫であるように。

